

企業の設備投資と人件費が医薬品不足に与える影響： 日本の慢性疾患医薬品に注目して

東北大学大学院 経済学研究科
博士後期3年の課程所属
沢田 拓哉
takuya.sawada.t5@dc.tohoku.ac.jp

Abstract

製薬企業による品質基準を順守しない製剤による医薬品不足が先進国の複数の国で確認されている。本稿は日本市場の慢性疾患の医薬品を対象に企業の設備投資と人件費が医薬品の不足に与えた影響を分析するものである。具体的には企業の有価証券報告書の企業情報と多次元固定効果を用いた最小2乗法を用いて、医薬品不足となった日数に与えた影響を分析する。この結果、設備投資と従業員給与の両方とも医薬品の不足日数を有意に短くすることが分かったが、その効果は同年には現れず、効果が表れるまでに時間がかかることが分かった。また薬価が上昇することで医薬品不足の期間が短くなることが分かった。したがって薬価により品質を維持するインセンティブを保つことや企業が設備投資で生産設備を向上、もしくは増築すること、従業員給与を上げてより高度な人材を登用することで医薬品不足の解決に貢献すると言える。これは現在、日本政府が行っている薬価の不採算品再算定や医薬品安定供給支援補助金などが長期的に効果的だと予想される。

JEL: I11, L15, L65

Keyword: 医薬品、不足、企業行動、設備投資